

---

# ソードアート・オンライン 或る短剣使いの話

神崎直人

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ソードアート・オンライン 或る短剣使いの話

### 【Nコード】

N4866Z

### 【作者名】

神崎直人

### 【あらすじ】

デスクゲーム《ソードアート・オンライン》にとらわれた主人公<sup>オータム</sup>がいろいろな経験を通していく物語。彼は生き残るために敵を払っていく…。

## episode 1 生きるために敵を払う

(そろそろ、今日は切り上げようかな?)

アイテム<sup>ストレージ</sup>を見ながらそろそろ規定重量ぎりぎりだし帰ろうかなー、と思う。

ここはVRMMO、というよりデスゲームと化したゲーム、《ソードアート・オンライン》。

舞台となるのは狂気の天才《茅場明彦》が心血を注いで生み出した、百層からなる巨大な石と鉄の城：《アインクラッド》。とても大きな世界、同時にそれだけしか移動できない閉じられた世界でもある。今いるのはその巨大な城の第二十層、『コボルドの巣』という名のフィールドダンジョン(上の層へとつながる迷宮区とはまた違う) 巣というだけあってわいてくるのは人を小さくして知能落としたらこんなになるんだろうなー、とおもえる怪物。

そいつらはだいたい五体ぐらいで湧いて出てきて、素手の奴もいれば棍棒とかを持っている(如何せん小さいため対して怖くない) 奴が突っ込んでくる。焦らなければどうとでも対処できる。

そして、ここは別に効率的に経験値を稼いでレベルアップができる、いわゆる《レベル上げ(ファームिंग) スポット》ではない。僕みたいに一人でMobを狩る奴、いわゆるソロプレイヤーの利点は、多人数より大幅に経験値とドロップ品を取ることができる事。《レベル上げスポット》でなら余計にだ。

じゃあ、なんで《レベル上げスポット》に行かないのかということ…

「まずは生きることだよな。」

正直生きていけたら僕としては文句がないからだ。

「…！」

帰ろうとしていたところにまたMobが湧いてきた。敵は正面に三匹。素手、棍棒、素手の装備。

これなら一気にいけるだろう、そう思い僕は突っ込んだ。

「ぎゃぎゃ…！」

耳障りな鳴き声とともに一匹が突っ込んでくる。冷静に敵を見て走りながら片手用短剣のソードスキルを発動させる。《ムーブ・スラスト》、単発突進攻撃…を小柄な体に叩きこむ。コボルトは一瞬不自然な形で止まるとその体をポリゴンえと四散させた。後二匹が同時に突っ込んでくるが、今度は《投剣》スキル、腰にある二本の投げナイフを両手で別々の目標に放つ《マルチショット》を発動。高速で目標に飛んだナイフは狙い違わず二つの小さな体に突き刺さった、相手の体勢が同時に崩れる。

そのまま棍棒を持つ方を間合いに捕らえ、三回連続突き《サーズ・スラスト》で仕留める。

その後、もう一匹を体術スキル、単発貫手《エンブレイサ》で仕留めた。

episode 1 生きるために敵を払う（後書き）

ストックが切れるまで毎日0時投稿です

感想、誤字脱字指摘をよろしく願います

episode 1 生きるために敵を払う2

「…ん、なんで戻るタイミングでこいつがいるの？」

転移結晶…一瞬で目的の町に戻れる便利な結晶…をもつたいないので使わず、歩いてもと来た道をたどっていた僕の目の前に現れたのは革鎧に身を包んだ通常より少し大きいコボルト《コボルトウォーリアー》。対処できないわけではないが、なかなか耐久と防御が高く正直な話めんどくさいなあという奴だ。

「…ん？ここまで来るまでに倒してないしなあ。」

何かの条件があるのだろうか、とか思っていると、どうやらこっちに気付いてしまったようだ。

「ガアアアア！……！！！」

「うるさいな。」

そう吠えるんじゃない。耳がキーンってなるんだよね、これ。あんまり好きじゃない。

コボルトウォーリアーは完璧にこちらを捕らえ、飛びかかってきたジャンプ攻撃、と思う暇もなく僕はそこから飛びのいた。ガツシャアアン！！…と大きい音がたった。すごい威力だな。

「当たるとまずいよね。さてどうやるのか？」  
「グルウ。」

あ、よく見たら目が赤く光ってる。怖いねえ。

僕は素早い動作で腰から投げナイフを抜き《投剣》スキル、基礎中の基礎、《シングルショット》を発動させる。地道に上げてきたスキルと自分のパラメーターが作用してか、かなり速く飛んで行ったそれは、何となく見ていた赤く光る目に直撃した。

「ガアアアア!?!?!?!」

「お?弱点だったりしたかな?大発見。」

みれば相手のHPバーがかなり減少している。どうやら本当に弱点のようだ。

悶えているコボルトウォーリアーにもう一発ナイフが刺さってない方を狙って《シングルショット》を発動、もう一つの目に直撃するように投げる。そしてまたも命中。

「グ、ガアアア!?!?!」

「ああ、なんかごめんね?」

相手のHPは大方消し飛んだわけだが、目に二つのナイフが刺さっているのはどうも猟奇的で頂けない。早く終わらせてやるか、と僕は悶えるコボルトウォーリアーに突進し片手用短剣のソードスキル《サーズ・スラスト》を発動しようど心臓の位置にあるクリティカルポイントに三発の連続突きを叩きこみ、相手の体を四散させた。

「ん、これははやくかえったほうがいいね。」

もう一回出ても困るし…。目にナイフ投げるのももういやだしね。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4866z/>

---

ソードアート・オンライン 或る短剣使いの話

2011年12月18日00時48分発行